

賀
春

うららだより

平成28年1月 vol.11



皆様 明けましておめでとうございます。

今年は元旦より好天に恵まれ、素晴らしい初日の出を迎えることができました。

また昨年日本では、大村氏・梶田氏のノーベル賞受賞やラグビーワールドカップ杯三勝など明るい話題に包まれました。

今年も明るく・楽しい話題の多い一年となる事を願っております。

さて、介護老人保健施設うららは、昨年も多くのご利用者様をお迎えする事ができました。これもひとえにご利用者様・ご家族様方からの信頼の証と重く受け止めております。

今年にはうららは開設十五を迎えますが、地域包括ケアの中心的役割を果たし、さらなる質の高い介護サービスを提供すべく、職員一同より一層努力してまいる所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご利用者様・ご家族様方にとって幸多い一年となります事を御祈念致しております。



理事長

恵比須 享



新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

当施設は「在宅復帰支援型施設」（在宅復帰率が30%以上）として二年半経過しました。当施設をご利用いただいているご本人が地域の中で少しでも社会参加のできる環境にお戻りになられるように頑張っております。また、人の寿命には限りがあります。当施設を気に入っていただいているご利用者様の天寿が近いとご家族が思われ、そう判断できる時には、親身の看取りをご家族が希望される場合、ご家族様をサポートする看取り体制も昨年構築しました。

国は「地域包括ケア（地域の中で、住民が安心して暮らせる）の一環の一部として介護施設を考えております。当施設も、地域の皆様の期待に添える介護施設になるためには、デイケアはもとより在宅支援のための訪問リハ等を含めより質の高い施設にしていかなければならないと思っております。ご理解とご協力お願いいたします。

施設長 西連寺 意勲

新春のお慶びを申し上げます。

2016年を恙無く迎えることが出来ました。一重にご利用者様、ご家族様の施設運営に対するご理解とご協力の賜物であると考えております。

国が期待する老健の役割は「在宅復帰支援施設」であると我々は認識しております。「少しの間でもいいので、ご利用者様に在宅でお過ごし頂くにはどうすればよいか」をテーマに多職種協働にて日々研鑽しております。

本年も一人でも多くのご利用者様を在宅へとご案内したいと考えております。無理のない範囲で結構ですので、まずは外出・外泊から始めてみませんか？ご家族様のよりいっそうのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

事務長 能勢 成人

H28年度 各部署より抱負

看護部

2 F

“お世話型ルーチンワークからの脱脚”をスローガンに掲げ、各部署が在宅療法・在宅復帰への支援、認知症ケアの充実に着手できるよう取り組んで参ります。

在宅復帰支援とフロアリハビリに力を入れています。目標・目的を持ち、前向きに生活して頂けるよう、共に歩みたいと思っております。

3 F

利用者様個々に適した「個別性のケア」に努め、レクリエーションの充実化を図ります。

リハビリ科

通所リハビリ科

栄養科

今年も「入所リハビリ」「通所リハビリ」「訪問リハビリ」と幅広く地域に貢献していきます。元気いっぱいよろしくお願いします！

ご自宅で安心して自分らしく生活できるようスタッフ一同支援して参ります。心身の健康と維持に努めており、来設された方々が笑顔でお過ごし頂けるよう、サービス提供を行っていきます。

低栄養の方や摂取量の少ない方に対して、どのようにして栄養改善が出来るだろうか、難しい問題ですが多職種協同により取り組んでいきたいと思っております。